

都中英研だより

第 70 号

東京都中学校英語教育研究会
会 長 飯 島 光 正
(豊島区立駒込中学校長)

都中英研は、英語教育の振興を図ることを目標に、昭和 60 年から諸事業を運営してきました。現在は、6つの部が活動しています。

中英研の活動は知っていても、部員になるにはどうしたらいいのか、あるいは地区幹事を任されたが、どのような活動をするのかという質問を受けることがあります。そこで、今回は各部の活動内容、地区

幹事の役割について下にまとめました。

授業準備や教材研究、校務分掌でそれどころではない状況も十分理解していますが、英語を通して部員同士が連携することで、授業や指導方法のヒントが得られることもあります。若手教員も多く所属しています。ぜひ、多くの先生方に、都中英研の諸活動にご参加いただけることを期待しています。

東京都中学校英語教育研究会(中英研)の紹介

都内公立中学校英語科教員の研究会です。
6つの部と各地区の活動で構成されています。

総務部

全英連、関プロなど全国、各地区の各種団体と東京都の橋渡しをしています。また、地区幹事・地区部長名簿の作成、定期総会企画・運営などを行っている、いわば中英研の核です。

部長 小金井一中 刀根

事業部

事業部の主な活動は、サマーワークショップ、授業力アップ研修会と英語学芸大会です。毎年12月ごろ開催される英語学芸大会(通称「エンター」)はスピーチ部門、プレイ部門でレベルの高いパフォーマンスが披露されます。

部長 八王子七中 横山

調査部

コミュニケーション能力を測定するテストの在り方を研究して「新コミュニケーションテスト」として実施しています。そのノウハウを生かした夏期ワークショップも好評です。

部長 玉川中 岩崎

研究部

6つのうち一番部員が多い部です。月1回の部会で「生徒の語りサイズを広げる指導の工夫」を実践研究し、毎年2月に公開授業・研究発表会を開催しています。夏のワークショップは毎年好評です。

部長 九段中等教育学校 石井

プロジェクトチーム部

英語教育の課題解決のために設けられた一番新しい部です。指導と評価の改善としてCAN-DOリストの作成と研修に取り組んでいます。そのリストを活用した公開授業も行っています。

部長 清瀬二中 齊藤

出版部

「都中英研だより」と「中英研会報」を担当しています。この2つの機関誌は都内中学校に中英研の活動を広く知っていただくとともに情報交換の場でもあります。

部長 大泉学園中 今本

地区幹事

各部の研究授業やワークショップ等の案内の担当地区内への連絡・周知を担当していただいています。また、毎年発行している「中英研会報」に掲載する、各地区からの報告も、地区幹事を通して依頼しています。

※各部ともに部員募集中です。詳細は、都中英研HPをご覧ください。(URLは最終ページ)

効果的な少人数・習熟度別指導のあり方

～充実したコミュニケーション活動を目指して～

小金井市立東中学校 教諭 石浦 絵務

(小金井市教育研究会英語部長)

小金井市教育研究会英語部では「効果的な少人数・習熟度別指導のあり方～充実したコミュニケーション活動を目指して～」を研修テーマに据え授業力の研鑽に励んでいる。

市立中学校は5校、部員は20名である。人数は他区市町村と比べて多くはないが、少ない分各部員が意見を出しやすく、それぞれの学校が抱えている課題等を全体で共有する場としても活用している。

平成28年度教育研究会英語部会の活動

1 学期

●今年度の研究テーマについての協議

今年度から東京方式での少人数・習熟度別指導が始まった学校が3校あり、実施について不安を抱えている部員も多くいた。すでに実施している学校の実践をもとに、部会で効果的な指導を進めていくことを確認した。

●各学校の実践の途中報告

新年度からの各校の取り組みについて協議した。実際に少人数・習熟度別指導を始めてみての課題が挙げられ、より具体的な点について活発に意見交換をすることができた。また「Welcome to Tokyo」の効果的な活用方法の協議、28年度版の教科書の変更点などについて確認することができた。

2 学期

●模範授業の参観

地域の指導教諭による模範授業を部会として参観した。「Welcome to Tokyo」を活用した授業で、今後の授業の実践に活かしたいとの声が多く上がった。

●研究授業・協議会

今年度は若手教員の研究授業を実施した。1年生の三人称単数現在形の導入の授業だったが、研究協議会では主に基本本文の導入の部分やグループ活動についての協議が行われた。研究授業は授業者だけではなく、他の教員の授業力向上につながるため、来年度も実施する予定である。

●講演会

国分寺第二中学校長の重松靖先生から研究授業の指導・助言をいただき、その後講演会でお話をいただいた。講演会では、新学習指導要領の変更点や、少人数指導の工夫点、留意点、Input から Output への過程についてなど、様々なことについて学ぶことができた。そして授業では、まず生徒に覚えてほしい表現を Input させ、くり返し何度も Practice することで生徒に自信をもたせ、最後にその表現を使って自己表現をさせるという流れを意識することの大切さを教えていただいた。また、All English の授業は生徒により多くの英語を使わせるためのものということで、具体的なデータを示しながらわかりやすく説明をしていただき、意欲が向上した教員も多い。実践的で次の授業からすぐに取り組みめるようなことも多く教えていただき、とても有意義な会となった。

3 学期

●一年間の活動の振り返りと、来年度に向けての情報交換を行う予定である。

事業部報告

○TEACHERS' SUMMR WORKSHOP 2016

日 時：平成28年8月17日（水）

会 場：千代田区立九段中等教育学校

講 師：水嶋 諒 教諭（江東区立深川第四中学校）

飯田 修平 教諭（三鷹市立三鷹第三中学校）

阿野 幸一 先生（文教大学国際学部教授）

内 容：午前の部 水嶋先生は東京教師道場で学んだことに基づいて、1時間の授業の組み立てやゴールを見通した単元計画の作成について発表した。飯田先生は、Active Learningの実践例として、「ポスターツアー」を取り上げた。グループで夢の学校のルールをポスターにする活動を行い、その効果や課題を考えるという内容であった。

午後の部 阿野先生は、「目的に合わせた音読指導のバリエーション」というテーマで、33種類の音読指導について説明した。新しい指導方法を学ぶだけでなく、日頃行っている音読指導の目的を確認することができた。

参加者：65名



研究部報告

第14回話し指導ワークショップ

第1回 8月2日(火) 千代田区立九段中等教育学校

- ①音とリズム、ジェスチャーを使った話し指導(1)……佐藤 優(多摩市立鶴牧中学校)
- ②ゴールからの逆算でつくる日々の授業……………古川 悟(品川区立荏原第六中学校)
～1年1学期「自己紹介スピーチ」をめざして～
- ③1年辞書指導～授業でどのように辞書を使わせるか……上尾栄美子(足立区立第五中学校)

参加者：78人 テーマが1年だったので、1年担当の参加者が多く、盛況だった。



第2回 8月10日(水) 世田谷区立三宿中学校

- ①教科書の語いに6回ふれる指導(2年)……………太田 裕也(八王子市立第六中学校)
- ②アウトプットをめざす話し指導(3年)……………福田真希子(江戸川区立鹿本中学校)
- ③日々の授業での話し指導(3年)……………水嶋 諒(江東区立深川第四中学校)

参加者：50人 若い先生方の参加が多かった。

第3回 8月18日(木) 中野区立中野中学校

- ①授業で辞書を使わせる工夫(2,3年)……………壽原友理子(世田谷区立三宿中学校)
- ②言いたい、伝えたい意欲を引き出し、語いを増やす活動(1,2年)……………福島美記子(杉並区立荻窪中学校)
- ③日頃の授業でどのように英語表現力を伸ばすか(3年)……………江濱 悦子(大田区立大森第四中学校)

参加者：64人 3回とも参加した先生もいた。3日間で合計194人の先生方の参加があり、研究部の研修会に対する期待を感じた。

調査部報告

都中英研調査部「夏期ワークショップ」

日時：平成28年7月29日(金) 午前10時00分から午後4時30分まで

会場：千代田区立九段中等教育学校

講師：東京外語大学大学院教授 根岸 雅史 先生

午前：講義「『読むこと』のテストづくり」

午後：テストづくりワークショップ

午前の「『読むこと』のテストづくり」では、日本の新聞を元にしながら

「読み方」についてご指導いただいた。その後、communicative reading の作成方法、reading skillの付け方、reading testのtext、教科書taskと test taskの関係、readingの決め方についてご指導をいただいた。

午後は、4～5名の小グループに分かれて自校の試験問題を持ち寄り、定期考査のリーディング・テストを使ったワークショップを行った。午前にテストづくりの基礎を学んだため、自分の考査問題の改善箇所が明確となった。その後、それぞれの考査問題に対して改善案を示し根岸先生よりご助言いただいた。参加者は自ら作成した定期考査の問題について熟考する良い機会となり、9月からの授業でも即実践できる内容であり、有意義な時間となった。



平成28年度 PT部夏季研修会

8月12日(金)、PT部夏季研修会を清瀬市生涯学習センターにて実施した。研修会の始めにPT部員、本田耕大教諭から昨年度の研究実践(CAN-DOリストを活用しての授業)を報告した。その後、講師の東京家政大学教授太田洋先生から、CAN-DOリスト作成の意義や活用方法について、独特のユーモアを交えた話術で分かりやすく講義していただいた。講義後に初めての試みとして3人～4人のグループでのワークショップを約1時間行った。ワークショップでは、どのグループも各学校の実態に応じたCAN-DOリストの作成について白熱した議論を交わしている姿が見られた。参加者の方々からは、CAN-DOリスト作成の糸口や多々の情報を得ることができた研修会であったが、「時間が足りない。」「長時間の研修会にして欲しい。」等の要望があり、今回の研修会が充実していたことを確信した。

8月中旬の参加が厳しい日ではあったが、64名という参加者数に、英語科教員の授業に対する熱い情熱を感じた。



各地区市町村英語教育研究部 部長会・幹事会

8月26日(金)午後より豊島区立駒込中学校にて標記の会(略称「部長・幹事会」)が開催されました。

東京都中学校英語教育研究会では、23区、26市、5町、8村からなる各地方自治体を60地区に分け、各地区に部長ならびに幹事の選出を依頼し、相互に連携を図っています。この部長・幹事会は年に1回、各地区の部長・幹事が一同に介する場となっています。さらに毎年講演会を開催し、現場での学習指導に役立つ講師の招聘をしています。本年度は「本文を使った統合的活動の指導方法」と題し、千代田区立九段中等教育学校指導教諭 本多敏幸先生のご講演をいただきました。最近の英語学習調査では技能統合型の言語活動や指導が十分ではないと言われています。約50人の先生方の参加のもと、ワーキング形式で現場の授業で役立つご講演をしていただきました。

第56回 大都市公立中学校 英語教育研究会連絡協議会



10月14日(金)、今年度の大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会が、「主体的・共同的な学習活動の充実」を主題として、横浜で開催されました。

開会式では、昨年度、さいたま市より提案のあった、小中高の一層の連携を図るための本協議会の役割の再構築について、名称を「大都市公立小・中学校英語教育研究会連絡協議会」と改正すること、また、名称変更に伴う課題等については、引き続き事務局において整理し、併せて解決策を再度提案することが確認されました。研究協議では、次期学習指導要領を視野に入れ、子供たちが自ら英語で考え、英語で発信することができるようになるための授業づくりについて各都市における情報交換を含め、活発な協議がなされました。続く講演では、講師の吉田研作氏(上智大学教授)より、「日本の英語教育改革の意味」という演題で、我が国の動向だけでなく、世界の潮流を踏まえ、今、進められている日本の英語教育改革についてご講演いただきました。

お知らせ

都中英研では、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)で著名な*Facebook を利用しております。研修会等の最新のお知らせを提供できるばかりが、投稿が可能なので、利用者間相互のコミュニケーションも可能です。ご関心のある方はアカウントを取得して、下記URLにアクセスしてみてください。

<https://www.facebook.com/tokyo.chueiken> *Facebookはフェイスブック株式会社の登録商標です。

また、都中英研のホームページもぜひご活用ください。本誌「都中英研だより」や年報である「中英研会報」も閲覧が可能です。ホームページは下記URLにアクセスしてください。

<http://www.chueiken-tokyo.org/>

編集後記

「都中英研だより 第70号」をお送りいたします。各校2部の配布となります。70号の発行に際して、多くの方に助けていただきました。ご協力をいただき、ありがとうございます。なお、1ページ目でも紹介させていただきましたが、中英研の諸活動を一緒に行ってください先生方を募集しております。よろしくお願いたします。

本誌に関するお問い合わせ先 >>>>

都中英研出版部長 今本 由美子(練馬区立大泉学園中学校 副校長)
TEL: 03-3925-4492 FAX: 03-5387-2294